

事業報告概要書（公表版）						公表様式
1 基本情報						
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要			
東京臨海広域防災公園			（指定管理者名）西武造園株式会社			
指定期間			（団体の概要）西武鉄道(株)をはじめとする様々な企業が属する「西武グループ企業」の一員であり、当社グループで関東圏を中心に全国各地にある85箇所570施設(令和6年4月1日現在)の都市公園等の管理運営に携わっている。			
R2.2.1～R6.1. 31（4ヵ年）						
2 施設名						
東京臨海広域防災公園						
3 管理運営の概要						
令和4年度と比較し、新型コロナウイルスの感染症の規制が緩和され、大型イベントの参加上限人数撤廃等で徐々にコロナ禍前の状況に戻ってきた。それを受け、令和5年度は「地域や関係機関と連携した様々な事業実施」を目標に、「コミュニティガーデン講座」の実施による都民の域を超えた参加者の募集を行った。また、「ふれあい動物園」や「ぼうさいモーターショー」実施による関係機関との連携強化を行った。「利用者の利便性向上」についても重視し、緊急対応等経費やベンチ・野外卓更新経費を用いてトイレ等の施設更新を行うことで、快適な園地空間の創出に寄与した。開園10年以上が経過し、徐々に劣化する施設（構造物）に対して、適切な更新を行うことで、利用者にとって安全・安心な空間を提供することができた。						
また、防災公園の特性を活かし、国営公園側と連携して毎月定例訓練を実施するだけでなく、「プラスα訓練」と題した訓練も毎月行い、熱中症やハチ刺され時の対応等を幅広く学び、スタッフ一同、万一の際に冷静かつ迅速に対応できる能力を身に付けた。また、12月には都立明治公園と連携し、MCA無線を用いた通信訓練も行った。						
4 管理状況（維持管理）						
【地域のコミュニティの場となるガーデンの創出】						
・都立公園と国営公園の境界部に令和2年度に造成した国営公園と都立公園境界部に位置する、ナチュラルスティックガーデンを活用した「コミュニティガーデン講座」を開催することにより、国営公園との連携強化、都民の域を超えた協働を図ることができた。						
・「NHK趣味の園芸 金子先生の寄せ植え教室」では、普段土にあまり触れる機会がない近隣の子どもの参加者も多かったため、土に触れる楽しさを知るきっかけづくりにも寄与できた。						
・阪神淡路大震災で亡くなってしまった女の子の形見である「はるかのひまわり」の種を消防少年団の皆さんに植えていただき、震災についても考えていただいた。						
【様々な利用者目線に立った施設更新】						
・緊急対応等経費やベンチ・野外卓更新経費を用いて、点字ブロックの新設やベンチ・野外卓の更新を行い、快適な園地空間の創出に寄与できた。						
5 利用者アンケート結果						
実施方法：公園内で調査票を配布・回収						
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応	
東京臨海広域防災公園	4.7	4.5	4.7	4.7	4.8	利用者満足度は昨年度と同じく4.7となり、9割以上の方に概ね満足していただける結果となった。満足度の評価項目の中では満足度が高い順に「スタッフの対応の良さ」「トイレ・休憩所等の施設の清潔さ」「園内の安全・安心感」「催し・イベント等の充実」が挙げられた。これらは、スタッフの丁寧な接客や日々の細やかな清掃作業等の成果だと考えられる。公園の良い点としては「スタッフの対応の良さ」という点がトップに挙がっている。これはイベントが昨年に比べて多くなり、利用者がスタッフと話す機会が増えたことが要因の一つと考えられる。引き続きイベント時や維持管理作業時に良い接客を心がけたい。その一方、「売店が少ない」も昨年度より上がっている声のため、引き続き掲示等で国営エリアに設置の売店（カフェ）や自販機等も案内し認知していただくようしたい。なお、園内で改善すべき点としては、昨年度に引き続き、「花が少ない」「休憩場所が少ない」といった項目が多く挙げられた。「花が少ない」といった意見に関しては、花が少ない時期にアンケートを取ったことも一因であるが、がん研病院南側に令和4年度増設した花壇が雑誌やテレビで紹介されつつあるため、当公園においてもホームページやブログなどで周知していく予定である。「休憩場所が少ない」といった意見に関しては、今年度ベンチを増設したため掲示板等でベンチの場所の案内を行う等の対応がベターと考えられる。
6 入園者数の状況（単位：人）						
施設名	当該年度	分析				
東京臨海広域防災公園	125,610	新型コロナウイルス5類感染症移行後、世間的に遠出する人が増加した結果、近隣住民の利用が減少し当公園の入園者減少にもつながった。なお、隣接する東京ビッグサイトにおいて大型イベント実施の際には、関係者が公園で休息等する姿が見られ、当公園の入園者数に大きく影響した。				
合 計	125,610	※入園者数は令和5年4月～令和6年1月までの合計人数				

都立東京臨海広域防災公園

＜東京臨海広域防災公園の基本的な考え方＞

- ①“都市の魅力を高める”公園づくり
- ②“高度防災都市を支える”公園づくり
- ③“生命を育む環境を次世代に継承する”公園づくり
- ④“豊かな生活の核となる”公園づくり

⇒魅力的な公園づくりを推進！



1. 地域の枠を超えた連携

●都立公園と国営公園境界部の大規模花壇「ナチュラリスティックガーデン」を活かした幅広い連携！

趣味の園芸に出演しているガーデンデザイナー大滝暢子氏を講師に招き、花壇の手入れに関する知識を受講生へレクチャーする講座を令和4年度に引き続き開催。満員となり、募集を締め切っても応募者が来るほどの人気ぶりとなった。公園の花壇づくりを通して、花や四季に触れる楽しさや、参加者同士のコミュニケーションを育むプログラムとし、公園の魅力アップにつなげた。その結果、都民の域を超え、近隣県からも参加者を募ることができた。



花壇の様子



講義の様子



実習の様子

2. 関係機関との連携

●関係機関と連携した「ぼうさいモーターショー」を実施！

災害時に活躍する車両に触れることで防災意識を高めてもらうイベントを実施した。警察、消防、自衛隊、米海軍等と連携し、防災関係車両を展示して災害対応に従事する隊員、職員達と接することで防災に興味を持っていただけた。



都立東京臨海広域防災公園

3. 防災意識の向上

●毎月訓練を実施し、スタッフの意識を向上！

毎月定例訓練を実施するだけでなく、「プラスα訓練」と題した訓練も毎月行い、ハチ刺されや急性アルコール中毒時の対応等を幅広く学び、スタッフ一同、万一の際に冷静かつ迅速に対応できる能力を身に付けた。

12月には都立明治公園と連携し、MCA無線を用いた通信訓練も行った。



ハチ刺され対応訓練の様子



急性アルコール中毒
対応訓練の様子



MCA無線を用いた
通報訓練の様子

4. 様々な利用者目線に立った施設更新

●施設更新を実施し、安全性・快適性を向上！

緊急対応等経費やベンチ・野外卓更新経費を用いて、点字ブロックの新設やベンチ・野外卓の更新を行い、快適な園地空間の創出に寄与できた。開園10年以上が経過し、徐々に劣化する施設（構造物）に対して、計画的に適切な更新を行うことで、利用者にとって安全・安心な空間を提供することができた。



園路サインを更新



点字ブロック設置前



点字ブロック設置後

5. 接遇力の向上

●国営側と一体感を持った接客の実施

国営公園側スタッフと一体となり、国営・都立両施設トータルでの接遇向上を図った。11月には、国営側も含めた全スタッフ対象の接遇研修を実施した。接遇研修ではロールプレイングを実施し、実際の接客に活かせる内容を行った。また、訪日外国人を想定した、おもてなし研修も実施し、外国人への対応についてもシュミレーションを行った。



接遇研修の様子

収支状況

3 収支(単位:千円)				
	令和5年度	令和4年度	令和3年度	公園別支出額
項目	金額	金額	金額	
収入 計	53,594	57,954	57,609	東京臨海広域防災公園：令和5年度→53,594 令和4年度→57,954 令和3年度→57,609
内 指定管理料	53,594	57,954	57,609	
内 利用料金	0	0	0	
内 その他収入	0	0	0	
支出 計	53,594	57,954	57,609	
収支差	0	0	0	